

一般質問 2017年 3月議会

新たな観光まちづくり戦略について

質問 渡辺 地域観光を取り巻く環境は大きく変化している。地域観光振興には、データに基づいた科学的アプローチが必要である。今、行政団体でのプロモーション活動から脱却して市民、各団体、行政と連携しながら観光振興・定住人口対策を含めた総合的なまちのブランディングが必要ではないか。

答弁 市長 政策課で委託している地域力創造アドバイザーを次年度も活用し、地域おこし協力隊やニューツーリズム協会との情報連携により、本市のブランディングをしていく。

感想



地域おこし協力隊もほとんどの隊員が単年度で契約解除し、ニューツーリズム協会の会員も激減し、理事長も副市長が兼務している状態では、本市の観光振興は進まないと考えられる。ニューリズム協会の改革が必要だと考えています。(これは、H29年3月時点の感想で、後に解散しました。残念です!)

一般質問 2017年 6月議会

投票率向上に向けた取り組みについて

質問 渡辺 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、若者の声が政治に反映されることが期待される。そこで、時代に合った投票しやすい環境を整えるお考えはあるのか。

答弁 選挙管理委員長 交通事情や施設の老朽ぐあい、制度改正など、様々な事柄を分析し、投票所、投票時間、期日前投票、移動支援をはじめ、様々な角度から検討していく。



感想



期日前投票率は毎回の選挙で上がっています。引田支所、大内支所、白鳥庁舎の3ヶ所で開設する事や高齢者のために移動式投票所の導入が急務だと考えます。

小中学校での主権者教育の実施状況は

質問 渡辺 選挙権が18歳以上に引き下げられたことから、市民と政治とのかかわり、選挙や政治の仕組みといった知識など政治的教養を育む主権者教育を小中学校でも実施する必要があると思うが、現在の小中学校の主権者教育の状況は。

答弁 教育長 主権者として求められる能力を育むだけでなく、地域やふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の振興や創生の観点から、できるだけ身近な自分たちの生活と関係の深い課題を取り上げ、職場体験などを通じた学習を行うなどの指導をしている。

感想



3年後に選挙権が与えられる中学生に、自分たちの生活、経済、文化などが政治と深いつながりがあり、自分たちの町は自分たちで創る気持ちを養うことが大切です。そこで、中学生議会を体験させ、今の本市の問題を直接市長や執行部職員に訴える事が主権者教育に必要なと考えます。

一般質問 2017年 9月議会

市道認定見直しについて

質問 渡辺 本市の市道認定は、旧町時代に認定した路線を引き継ぎ市道認定し、整備管理を行っている。

市道認定を受けていない道路は、原材料支給制度や道路整備分担金制度により、地元の方が対応しているが、効率が悪く完成までに数年かかるのが現状である。

また、道路整備負担金制度も事業費の20%負担と改善されたが緊急車両が通過する道路では、地元負担を負わずのも現実的ではない。そこで、合併後市道認定要件に満たす道路があると思われるが再度、認定路線を見直す考えはあるのか。

答弁 市長 現在の市道管理業務にも影響が及ぶことから新たな市道認定は困難である。

感想



現在の市道認定路線は旧3町の町道を継続し認定したものであり、合併後市道認定要件に満たす道路については、再度見直し市道認定し、市が整備管理をする必要があると考えます。

一般質問 2017年 12月議会

ニューツーリズム協会解散後の観光事業の取り組みは

質問 渡辺 2018年3月末に、ニューツーリズム協会が解散する事が決定したが、新たな観光事業組織の戦略や事業計画、また、市長の新たなまちづくり観光事業ビジョンがあるのか伺う。

答弁 市長 ニューツーリズム協会は最近では、観光交流の効果が十分に出来なかったことや、諸業務に労力の大半を費やし、本来の業務を立て直すことができず解散が決定した。人材確保に課題があるが、4月を目標に新たな観光振興組織を立ち上げる。ビジョンについては、個人旅行者向けの周遊プランや体験型旅行商品開発とした事業展開をし、本市の身の丈に合った観光事業への可能性を研究して行く。

感想



ニューツーリズム協会は平成21年に第7回香川21世紀大賞を香川県から受賞し同年に香川県観光功労賞を初代理事長が受賞した輝かしい功績がありました。しかし、リーダーが代わり市直営状況になり、協会会員の意見も取り入れられず形だけの観光事業組織になったのが解散の原因だと考えられます。新たな観光組織には、民間の観光事業に携わる団体の意見を取り入れ透明性のある組織になる事が重要であり、積極的な活動が必要と考えます。